

市民・団体 インタビュー

つるがしま
観光農園協会

×

市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に

本市の観光農業の発展と振興を図ることを目的に令和2年8月に設立されたつるがしま観光農園協会。同協会を組織する農業者を中心とした会員の皆様にインタビューしました。



<つるがしま観光農園協会の会員>

沼倉裕之さん（さつまいも・トウモロコシ）、内野慎伍さん（クウイフルーツ）、内野康昭さん（加工販売【さくら荘】）、比留間正道さん（イチゴ・クウイフルーツ）、村田耕一さん（ブルーベリー）、高田隆由起さん（さつまいも・トウモロコシ）、内野嘉広さん（クウイフルーツ）

※（ ）内は生産予定も含まれます。（順不同）

※観光農園とは…

農産物の収穫や一部の農作業を体験できる農園のことをいいます。また、体験だけでなく加工品の販売や食材を使った飲食店など様々な取組も行われています。

●協会設立のきっかけ

インターチェンジなど交通の利便性を活かせば、市外や県外の方が訪れてくれると考え、観光農園を広めていくことにしました。地元の消費に留まらない地産他消も視野に入れていきます。

●年間を通じて楽しめます

イチゴ、ブルーベリーのほかにクウイフルーツ、さつまいも、トウモロコシの栽培を予定しています。研修も行い、現在は育苗や施設の作製などに取り組んでいます。収穫時期が異なる作物なので、年間を通じて人が訪れるようにしていきたいです。

●鶴ヶ島の農業の特徴

都市開発が進み、点在している小規模な農地で、いかに収益を確保するのが課題です。

また、「鶴ヶ島と言えば…」となる野菜や果樹がありません。人を呼び込むためにはブランディングも必要だと考えています。

●市に応援して欲しいのは

広報活動への協力や補助金の継続に加えて、市職員との協議の機会などで農家を応援してくれる体制にしてほしいです。



担い手不足で事業拡大できていない面もあるので、繁忙期に手伝ってくれる方の募集に協力していただきたいと思います。

●まちへの思い

農家や飲食店の方たちがチャレンジをしており、「何もない」のではなく、自由度が高くて、できることがいっぱいあると感じています。

観光農園をきっかけに農業と商業が連携して観光都市にできればいいですね。

●議会に目を向けてもらうには

市民には議会の実績や成果が見えてきません。また、会議の内容も、出来上がったものを読むのではなく、筋書きのない議論であれば興味がわきます。

ターゲットを絞り、その対象が興味を持っていることについて、取組などを分かりやすく発信すれば理解が深まるのではないのでしょうか。

市議会は市民の声を直接聞きに出かけます！

編集 後記

地球温暖化、自然災害、コロナ禍…。「非常事態」が次々に起きる中、食料自給率37%でいいのか。

そんな思いを胸に抱きながら、鶴ヶ島の農業の観光化を目指す、若手の農家を中心とした皆様と話し合いました。当日は、秩父おろしの冷たい風が吹き荒れていましたが、ビニールハウスの中は暖かく、皆様の「農」に向き合う熱い想いが伝わってきました。農業に携わる若い方々を大きく育てる、希望の持てる農業政策が求められています。

（石）

（議会報編集委員）

委員長 大野 洋子
副委員長 出雲 敏太郎
委員 山中 基充
委員 小林 ひとみ
委員 太田 忠芳
委員 石塚 節子
委員 内野 嘉広
委員 持田 靖明